

大念佛

No.68

発行/融通念佛宗
総本山 大念佛寺
大阪市平野区平野上町1-7-26
TEL.06-6791-0026

題字：融通念佛宗 管長 倍巖良舜



謹賀新年

年頭所感

”利他行の心がけ”

融通念佛宗務総長 吉村 暉 英

新年あけましておめでとうございませう。
平成二十六年の新春を迎え、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

宗門では明年に御遠忌を控え、教宣法要部、記念事業部、勸財会計部の各部会において、御遠忌を機に檀信徒の皆様がたに本宗の教えをより広く理解していただくため、また気持ちよく総本山へご参拝いただけるよう、準備に余念がありません。

皆様がたには多大のご支援、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

二宮金次郎(尊徳翁)に、「たらいの水の話」という教えがあります。水を自分の方に引き寄せようとすると、向こうへ逃げる。しかし相手にあげようと押しやれば、自分の方に戻ってくるといふものです。(「到知」より※)「推譲」といふ語があります。他人を立てて、自分は一歩退く。そこに共に生かされる道理があるのです。これを仏教では「利他」といいます。他人に利益を与えること、あるいは自分のことはあとにして、他人のために尽くすことです。利他に対して「自利」があります。これは自分の利益、自分のためということですが、他を潤すと自分も潤うのです。これを利他行といい、また菩薩行ともいいます。ここに融通の精神が脈打っています。

お互いに利他行を心がけたいと思います。
※到知：月刊誌 二〇一三年九月号

先祖供養のこころと実際

融通念佛宗務総長 吉村 暉 英

一、先祖供養

日本仏教は古代から先祖供養とともに存在してきた。先祖とは初代以後、現存の人に至るまでの人びとのことであり、代々の家系に連なり、その家の御霊屋（仏教では仏壇）に祀られている人のことでもある。だれもがいつかは必ず先祖になるわけである。

先祖のことを「とおつおや」ともいう。これは「遠つ祖」のことで、遠い先祖を自分の祖（親）となつてかしみ敬う気持ちが表れている呼び名である。また「乃祖」という呼称もある。「乃」はここに汝（あなた）という意味で、「あなたの祖」ということである。

先祖は今ある私の根である。根をしっかりと養わずして、枝葉が栄えるためしがなといわれるが、まことにそのとおりである。

先祖供養は、とおつおやの靈に感謝と報恩の思いをこめて、安らかな永遠の世界に安住してもらうためのものである。日本人はこの思いを子々孫々に伝えていくことによって、「家」または「家系」を成立、維持せしめてきたといってもいい。

先祖供養の心と行動が一人びりの血肉となって意識の中に定着しているのである。大和魂とか日本人らしさなどの心情も、この中から育まれてきたといふべきであらう。

私たちはそれを各種宗教儀礼によって、具体的に実践しているのである。合掌・礼拝、読経、称名

など、動作によるもの。灯明、香花、水、茶湯、飯、菓子、果物等の飲食や、その他莊嚴品と呼ばれる装飾用具等に至るまで、およそ衣食住の生活全般に不可欠なものを供養物として捧げるのである。また広く布施行といわれる施しも供養の行為として忘れてはならないものである。

ない。精神的崇敬なくして身体的行為はなしえない。また身体的行為を励めば必ず精神的崇敬の念がわいてくる。

身体的行為の代表格として布施行がある。布施行の一般的なものとしては、寺院、僧侶への財施（供養料、仏具、法衣など）、親類縁者への施齋（食事）や供養品、地域社会への財施（金品などの施与）、道路、公園等の勤勞（清掃）奉仕等がある。

三、仏壇

先祖供養には各種各様の方法があるが、その中核をなすものは御霊屋（仏壇）への給仕をはじめとする奉仕である。

元来、仏壇とは仏像を安置するための石、土、木材などで造られた基壇のことであった。今では箱型の須弥壇形式のものや、しこみ形式の中に、宗派の本尊、開祖や高僧の画像とともに、位牌、過去帳を安置し、諸々の供養具によって飾られた区画を指す。

仏壇の歴史は古く、日本書紀天武記（六八五）に、「諸国の家ごとに仏舎を作り、仏像及び経を置きて以て礼拝供養せよ。」とある。しかしこの仏舎が現在の仏壇の始まりとは考えにくい。むしろ一般には、魂棚（霊棚）に祖霊を祀つたものが起源であるという方がびつたりする。にも拘わらず、仏壇は本尊をお祀りする所であり、先祖は付随的であるとの考えを押しつけるのは、人びとの先祖を思う



二、供養と布施行

供養の意味するところは多義にわたっているが、限らない敬いと感謝の心を捧げ尽くすという根本義からすれば、布施行と同じである。それゆえに供養と布施は同一観点に立つものである。

先祖供養には精神的崇敬と身体的行為とがある。しかしこの両者は決して別個に存在するものでは

純真心をさか撫でするものではない。

本尊や宗祖もお祀りするけれども、先祖の御霊を祀り、奉仕するのが仏壇であるということを確認する必要がある。宗教は人びとの思いに寄り添うことによって救いとなるのである。

四、供養の実際

仏壇における先祖供養の具体的な形として、莊嚴供養と飲食供養の二種がある。

(一) 莊嚴供養

仏具をも含めた仏壇の数々の装飾品をいう。仏壇は仏殿あるいは寺院の内陣を小さくして、仏祖（仏さまやご先祖）のおわす浄域を厳かに飾つたもので、仏具、仏器がそのまま經典に説かれる仏国土を飾るものであるとともに、供養の品となっている。

宮殿：仏壇の上段中央に設けられた本尊の安置所。屋根は垂木、蛙股、斗拱などが施されている。本尊は十一尊仏の掛軸を本義とするが、仏像を祀るところもある。宮殿の両側に祖師壇があり、宗祖良忍上人と中祖法明上人を祀る。宮殿は観経の宝楼閣に相当する。

須弥壇：仏教の宇宙観に基づき、世界の中心にあるという須弥山を模して、中央が少しくびれた形をした台座。
欄干：阿弥陀経に説く極楽の七重の欄楯。
瓔珞：珠玉や貴金属を編んで垂らしたものを。網状に編んだものを羅網という。

燈籠：なたね油を入れて燈芯を燃やす輪燈は装飾品として用いられた。今では豆球の釣り燈籠が多く使われている。
打敷：器具の下に敷く金欄や錦

の敷具。

戸（扉）：観音開きで、結果（内）と外を区切るもの（）を意味し、内側は清浄な仏の世界であることを表す。

障子（帷）：薄布を張つたもの。貴人と対面するとき、直接、目に触れず、帷を通して拝謁することと同義である。

欄間彫刻：蔵型といわれる先端が拳状に巻いたものや、花鳥、鳳凰、龍華文などがある。また内部の戸や引き出しにも描かれ、仏国土の様相を表現している。

燈明台（火立て、燭台）：燈明は仏の智慧の光を表すもので、私たちの暗い心、迷いの心を照らし出し、喜びと感謝の明るい世界へ導くものとして、香、花とともに供養の代表的なものである。

花立て（華瓶）：花はあなたがい慈悲の心を表すもので、仏菩薩や先祖の心を具現したものである。これを外側に向けるのは、先祖の心をいただき、守られるためである。

香爐：香には抹香、塗香（体に塗る粉状のもの）、練香などがあるが、練香が最も多く使われている。練香は三本を常とする。これは仏法の功德を香にたとえたものであり、

(一) 仏さまご先祖さまの戒めをよく守り、悪の道にそれませんと心構え（戒香）。(二) 怒りや貪り、その他、種々の条件によって起こる心の波風を押さえます（定香）。(三) 無駄な心のとらわれを離れ、安らかに幸せな日々でありますように（解脱香）との思いをこめる意味である。また香そのものの力用（はたらき）として、

(一) よき香りによって、私の心とこの場所を清らかに致します（清浄香）、(二) どうぞこのよき香りをお召し上がりくださいと手向ける（飲食香）、(三) 香煙に乗

って、私の真心が仏祖に届きますように（仏使香）という三つの思いがある。抹香を用いて焼香するときも同様である。このように練香三本、焼香三回を基本とするが、三つの心の一つにこめて一本または一回でもよい。

因みに香爐には砂を使用せず、必ず灰を用い、常に清く保つように心がけていただきたい。

(二) 飲食供養

仏飯器：お仏飯を長時間、供えたままにしておくと固くひからびるので、早目に下げて必ず家族で頂くようにしたいものである。餓鬼棚のお下がりは、川や池の魚に施すのである。

茶湯器：水とお茶、どちらをいつ供えるのかということについては決まりはない。ただ、水は朝（または午前）、茶はその後（午後）に供えることが通例であった。これを前湯後茶という。

仏飯と茶湯は毎日のことであるから、置き易く下げ易い場所に供えることが大事である。仏壇店では上段の奥に置いてあるが、これは実際に即さない。供えにくいということは供えるのが億劫になることである。

高坏：菓子、果物などを供える。
膳：生御膳と煮御膳とがあるが、普通、一般家庭では煮御膳を用いる。膳の上に五種の容器があり、飯、汁物、酢の物、煮物等を山、海（海藻類）、野、里（人工が加えられたもの）、高野豆腐、寒天などの産物を組み合わせる。そのとき飯椀を向こう（仏祖側）にし、箸を添える。年忌などの節目には必ず供えるものである。

新しい年の始めに、改めて供養報謝の心のみつめていただきたいと願うものである。

寺庭婦人会 創立三十周年に寄せて

寺庭婦人会 会長 三浦初子

融通念佛宗寺庭婦人会は、関係諸師のご尽力のもと、昭和五十九年五月に創立され、三十周年を迎えることができました。

本会の礎をお築きいただきました初代会長であります第十教区法徳寺 故 倍巖信子様の発足趣意を基として、私たち寺庭婦人の実践指針が、次のとおり制定されました。

「融通念佛宗寺庭婦人のよるべ」

- 一、融通念佛宗寺庭婦人は、
真実を求めて生きぬかれた宗祖良忍上人のみあとを慕い、人間に生まれた尊さにめざめ、深くみ仏の教えを聞き、みのりの母として念仏生活にいそしみます。
- 二、融通念佛宗寺庭婦人は、
相互の親睦をはかり、みのりの実践者として研修を行い、各自坊において住職を扶け、檀信徒の教化に尽くします。
- 三、融通念佛宗寺庭婦人は、
念仏にかおる家庭の実現をめざし、仏の子供を育てるため、広く地域社会にみのりの輪を広げます。

本会の発足以来、この趣旨を継承し毎年度、万部会ほか御本山の



融通念佛宗寺庭婦人会創立30周年記念式典

月三日アウイーナ大阪に於いて「寺庭婦人会創立三十周年記念式典」を挙行いたしました。式典当日は、御本山管長陛下をはじめ本山関係諸師、本会歴代会長、並びにご来賓の方々のご臨席のもと、会員皆様方の多数のご出席をいただき、管長陛下からお祝いの言葉を賜り、宗務総長、顧問の方からもご祝辞をいただき、歴代会長からは会員方々への記念品の贈呈を受け、厳かに閉式いたしました。

法要行事への参拝、講演会、見学研修会、写経会、委員研修会などの研修事業の開催、東日本大震災などの大災害時には義援金の募金活動を行い、また、詠讚歌舞クラブ並びに融通念佛宗聖歌隊への会員としても加入し、もって現在に至り、平成二十五年度にて創立三十周年を迎える事となりました。三十周年の大きな節目にあたり、記念事業実行委員会を組織して記念式典を実施するはこびとなり、御本山並びに関係諸師、歴代会長、本会役員、会員の皆様方の温かきご協力をいただきまして、同年七

式典に引き続き、詠讚歌舞講師 魚山流家元 武田花風先生のもと詠讚歌舞クラブ会員の皆様方による詠讚、詠讚歌舞、並びに聖歌隊 講師 河田早紀先生、高木寿美代先生のもと、融通念佛宗聖歌隊員によるコーラス、独唱等、記念式典に華を添えていただきまして盛大裡に閉会いたしました。創設以来三十年を迎えられましたのも、御本山の格別のご支援のおかげであり、歴代会長はじめ先輩委員方のためまぬご尽力と、会員方々のご協力の賜物と深く感謝



申し上げます。

日々新たに、また日に新たなり、と申します。創立三十周年を契機として、近年の変転を極める社会

情勢の中にあつて、本会の趣旨、精神を基として現代に順応し、より一層の発展に向けて進み得たく思っております。

皆様方には、今後ともなお一層のご協力、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

投稿コーナー

私の人生の目標

寺庭婦人として

隆興寺を支えて

隆興寺内 村井美代子

人間として、この世に生を受け、今日の日まで健康に過ごしたいと思えます。それと共に、お世話人の皆さま、檀信徒皆さまに支えていただき、時には厳しく、時には慈愛に満ちた御指導を賜ったおかげで、今日の我身があるのだと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

隆興寺は、豊かな自然環境に恵まれ、田畑には、四季折々の作物

が実ります。遺跡も数多くあり、深遠の人々の営みが垣間みえます。お寺の行事の折には、精魂こめて収穫された作物を御供えしていただきます。

お参りくださる皆さま、特に尼講のおばあさま方にはたいへん親切にさせていただきます。そんな時「ほんまにありがたいなあ」と思います。お世話の方が「重たいやろう。後はわしらでやつくさかいな」とお手伝いくださる時、「ありがたいなあ」心の中で手を

たいなど思っています。

第十教区 教化活動の報告

「融通念佛 聖聚来迎」

第十教区事務局

平成二十五年十月十九日。華嚴宗大本山 東大寺におきまして、第十教区の教化活動「融通念佛 聖聚来迎」を盛大に厳修させていただきますました。天の采配か、前日から大雨もやみ、多くの方々にお越しいただきました。午後の講演会には、会場に入りきれない程

の聴衆が詰めかけました。見上げる大仏様のお膝もとに、菩薩がお渡りくださいますと、参詣の方々からどよめきの声が上がりました。散華が舞う大仏殿は、まるで蓮池の極楽浄土の世界。澄み渡る楽奏の調べと、声明の響きが堂内いっばいに広がって、聞き



入る善男善女の心をふるわし、心の垢を落しました。午後からは、東大寺長老狹川宗玄師にお越しいただき、記念講演会「融通念佛宗と華嚴との関わり」を開催しました。聴衆から感動のため息が漏れる中、大盛況の教化活動の幕が閉じました。本会を、成功裏にお導きくださいました全ての皆さまに厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

岩湧山にひびく子供達の念仏 子供念仏会 報告

第一教区西方寺 安岡良剛

夏休み子供念仏修行体験も今年で七回目となりました。今回も河内長野市にある、岩湧寺さんにお世話になりました。

参加人数は二十四名で、男子が十六名女子が八名で小学一年生から中学一年生までの幅広い年齢層で修行しました。

七月二十二日、二十三日の一泊二日体験修行

大念仏佛寺に集合して本堂でお勤めをした後、岩湧寺へバスで移動しました。到着してまず、班分けをして本堂へ行き、わいわいが



やがやとしていた子供たちに厳しく叱り、衣装と数珠を渡して、念仏修行の始まりです。

最初はしどろもどろのお念仏だった子供たちもお念仏を唱え、五分が過ぎ、十分が過ぎ段々と二十四人のお念仏一つになり始めました。勤行の後は、夕食の精進カレーをみんなで作り、食時作法をして本堂の外でムササビを観察しました。このお寺で修行体験を実施してか

ら三年目でようやくムササビが木から木へ飛ぶ姿をはっきり見られて子供たちも喜んでいました。翌日は早朝からお勤めをして朝食をとり、ラジオ体操をした後、岩湧山へ登山しました。残念ながら数名は中腹で下山しましたが残りのみんなは元気に山頂まで登りきりました。その後、お世話になったお寺をきれいに掃除し、最後に勤

最後に参加いただいたお子様のお母さまからの感想を紹介させていただきます。

この度、お寺修行では子供達が大変お世話になり、ありがとうございます。仏様が安置されている特別な場所での集団生活、行動は子供心としては、はじめは不安や戸惑い、驚きが多かったと思います。

しかし、色々な先生方にご指導を頂き、貴重な経験として子供の心に刻み込まれたかと思えます。

例えば、南無阿弥陀仏とお念仏をふとした瞬間に唱えてくれる事がありません。それを聴いていた周りの方が、びっくりした表情をされます。子供は、褒められた事を誇らしげにし、笑顔でそれに応えていました。

そんな光景を見ると、幸せな気持ちになります。食事に対しての考え方も少し変化がみられました。平気で食事を残す事をしなくなりました。

感謝を込めて頂く事が、多少なりとも出来る様になったと感じました。

この様に普段当たり前の様にしなくてはならない事を親元から離れ、経験し、学び、一つずつ成長をしてくれた事が嬉しく感じます。

貴重な経験をとても有難く心に深く感じております。

本当にありがとうございます。

大念仏寺 年中行事ご案内(二月～七月)

- 一月一日(水祝) 午前五時 修正会
- 一月十六日(木) 午前十二時 融通念佛会
- 二月三日(月) 午前九時三十分 寒行
- 二月十六日(水) 午後二時 大般若転読
- 二月二十六日(水) 午後二時 元祖聖応大師 御忌法要
- 二月二十七日(木)～三月五日(水) 午後二時 保管霊骨追善法要
- 三月二日(日) 午前七時三十分 河内御回在御出光
- 三月五日(水) 午後一時 再興大通上人 御忌法要
- 三月二十日(月) 午後一時三十分 写経奉納供養・筆供養
- 五月一日(木)～五日(月祝) 万部法要
- 五月十六日(金) 午前十二時 融通念佛会
- 五月十八日(金) 午後一時 百万遍会(大数珠くり)
- 五月二十一日(木) 東照大権現忌
- 五月二十九日(木) 午後三時頃 河内御回在御帰院
- 七月七日(月) 午後一時 中祖法明上人 御忌法要
- 七月二十日(日) 鳥羽上皇忌
- 毎月第二水曜日 午後二時～四時三十分 大念仏寺仏教講座
- 毎月二十六日 午後一時三十分 定例布施
- 毎月二十六日、午前九時三十分より午後三時まで、白雲閣にて写経(二巻千部)を行っております。
- 納骨のご案内 本堂に於いて、午前九時三十分より午後四時まで年中無休で宗派は問わず納骨を受け付けています。
- お問い合わせ 大念仏寺宗務所 ☎06-6791-0026

謹賀新年

融通念佛宗本山 大念仏寺

管法 長主	倍嚴	良舜
宗務総長	吉村	晴英
教学部長	中江	慈光
庶務部長	岡田	眞澄
財務部長	北川	全宏

話せば心も軽くなる 大阪仏教テレホン相談室

仏事相談、信仰相談、その他あらゆる人生相談を上宗派の僧侶がお受けします。

月曜日：融通念佛宗・浄土宗
月曜日～金曜日 一月十日～十二月二十四日(八月休)

でんわ ☎06(六二四五)五一一〇 午後二時～五時迄